

平成25年12月13日

参考資料

## 一般社団法人 漢方産業化推進研究会（仮称）が設立！

薬草栽培から製品化や周辺医療機器・システムの開発、さらには海外展開をも見据えた漢方産業化をテーマとする「一般社団法人漢方産業化推進研究会（仮称）」が新たな組織として設立されます。

12月18日に設立発起人の黒岩知事をはじめ3県知事及び慶應義塾大学渡辺教授が出席し、記者会見を行いますので、お知らせします。

ぜひ、取材にお越しくださいますようお願いいたします。

### 【設立記者会見 概要】

- 1 日時：平成25年12月18日（水）17:00～17:30（開場16:15）
- 2 場所：大手町ファーストスクエアカンファレンス  
EASTタワー2階 Room D (<http://www.1ofsc.jp/>)  
(住所：東京都千代田区大手町1-5-1 )
- 3 出席予定者（敬称略）：  
黒岩 祐治 神奈川県知事  
石井 隆一 富山県知事  
荒井 正吾 奈良県知事  
渡辺 賢治 慶應義塾大学教授
- 4 主催：漢方産業化推進研究会（事務局 ㈱三菱総合研究所）

なお、富山県、奈良県及び㈱三菱総合研究所において同様の発表を行っています。

（本件に関する問い合わせ先）

神奈川県 政策局 政策部 国際戦略総合特区推進課

担当課長 金子 045-210-4862

主 幹 沖田 045-210-4893

## 「一般社団法人漢方産業化推進研究会（仮称）」の設立に当たって

わが国では、世界が未だ経験したことのない、未曾有の超高齢社会が到来しており、医療を含めた従来のわが国のヘルスケア・システムは、その持続可能性を失いつつあります。

このような中、従来のように、病気になってから医療機関を受診するのではなく、医食農同源などライフスタイルの見直しにより、病気になる前に健康に戻していく「未病」の考え方が、今後のわが国のヘルスケア・システムを考えていく上で、極めて重要となっています。

「最先端医療」と漢方の「未病を治す」というアプローチを合わせた「東西医療の融合」は、わが国でこそ実現可能な「いのちに向き合う医療」であり、世界に先駆けて超高齢社会を迎えたわが国が世界をリードできるシステムでもあります。

その一方で、日本は、漢方薬の原材料となる生薬の80%以上を中国産に依存しており、安定的な国内供給体制をとることが、喫緊の課題となっています。海外からも、トレーサビリティのしっかりした安心・安全の日本産生薬ならばにその製品を求める声は大きく、大きな産業になる可能性を秘めています。

また、国内農業の担い手の減少している地域において、新たな高付加価値作物としての薬草栽培は、耕作放棄地や中山間地の活力を取り戻す地域活性化に有効な施策としても、期待されています。

私どもは、このような認識に立ち、これまで本会発足のため企業の皆様にもご参加頂きながら、準備会による熱い議論を重ねてまいりました。

そして、このたび、神奈川県・富山県・奈良県を中心に自治体および企業が連携し、漢方の産業化をテーマとして薬草栽培から製品化や周辺医療機器・システムの開発、さらには海外展開をも見据えた新たな組織として、「一般社団法人漢方産業化推進研究会（仮称）」を正式に立ち上げる運びとなりました。

この研究会をきっかけとして、先進的な3自治体とイノベティブな企業群が協働し、世界に発信する次世代ヘルスケアモデルを構築するとともに、日本再興に向けた大きな産業へと躍進させてまいります。

平成25年12月

黒岩 祐治	神奈川県知事
石井 隆一	富山県知事
荒井 正吾	奈良県知事
渡辺 賢治	慶應義塾大学教授